

2日 水曜

ルカ



18:1 いつでも祈るべきであり、失望してはならないことを教えるために、イエスは彼らにたとえを話された。

18:2 「ある町に、神を恐れず、人を人とも思わない裁判官がいた。

18:3 その町に、ひとりのやもめがいたが、彼のところにやって来ては、『私の相手をさばいて、私を守ってください。』と言っていた。

18:4 彼は、しばらくは取り合わないでいたが、後には心ひそかに『私は神を恐れず人を人とも思わないが、

18:5 どうも、このやもめは、うるさくてしかたがないから、この女のために裁判をしてやることにしよう。でないと、ひっきりなしにやって来てうるさくてしかたがない。』と言った。」

18:6 主は言われた。「不正な裁判官の言っていることを聞きなさい。

18:7 まして神は、夜昼神を呼び求めている選民のためにさばきをつけなくて、いつまでもそのことを放っておかれることがあるでしょうか。

18:8 あなたがたに言いますが、神は、すみやかに彼らのために正しいさばきをしてください。しかし、人の子が来たとき、はたして地上に信仰が見られるでしょうか。」

この裁判官よりも神様ははるかに慈悲深い方です。ですから神様が「夜昼神を呼び求めている」人に応えないはずがありません。問題は私たちが祈りをすぐにやめてしまうことです。「しばらくはとりあわない」かのように、神様は私たちの信仰を見るために、または忍耐を訓練するために、すぐには答えられない場合がありますが、そのようなときにすぐに

不信仰に陥ってしまって、祈りをやめるのです。

神様がすぐには答えないのには、深いお考えがあります。そのことを信頼して、あくまでも神様を頼って、呼び求めましょう。時には祈りの目的が変わってくるかもしれませんが、それも聖霊様の導きであるなら、感謝しつつ確信を深め、呼び求め続けましょう。

愛の満ちしなど)

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、

